

## 平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

令和元年 5 月 15 日

代表者 鈴木 晴子

研究課題名	インクルーシブ保育・教育の移行に向けた保育者養成カリキュラムの開発 (Ⅱ)
研究期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
共同研究者	潮谷恵美・山田陽子・権 明愛
<b>1. 今年度の研究概要</b>	
<p>国連により障害者権利条約が制定され、世界はインクルーシブ保育・教育へと進んでいる。日本も 2014 年に本条約に批准し、益々インクルーシブ保育・教育へと進んで行くことが想定されている。インクルーシブは障害のある子どもを指すのではなく、「文化的・社会的・経済的困難な特別なニーズを持つ子ども」であり、家庭と子育てに最も身近な専門職である保育者はこういったことに対応しうる専門性が要求されていると言える。本研究では、保育者養成課程における特別なニーズを持つ子どもに対する知識・技能の習得と専門性の構築過程を検証し、インクルーシブ保育・教育システムの移行に向けた保育者養成カリキュラムの開発を目指す。基本的には本学在学学生及び卒業生を対象としつつ、インクルーシブ保育の実践を重ねている現職者研究の構築も視野に入れ長良検証を行った。今年度は、3 つの柱を設定した。研究 1 教育内容の検討のための保育学生の実態調査、研究 2 現職者のキャリアパスの構築、研究 3 インクルーシブな環境と保育教育実践の実態調査である。研究 1 は①保育者養成校入学生への質問紙調査、②資格免許に関わる実習の授業検討、研究 2 は①現職者を対象にしたインタビュー調査及、②現職者研修の企画運営に際する教材選定、研究 3 はインクルーシブな環境と保育教育実践の実態調査である。以上のうち、平成 24 年度からの継続研究は研究 1①と研究 2①、平成 29 年度からの継続研究は研究 1②である。研究 2①については、2016 年 3 月に保育者養成校を卒業した現職保育者であり、社会人 3 年目のデータを得た。</p>	
<b>2. 研究の成果</b>	
<p>本研究により確認されたことを以下に記す。</p> <p>研究 1 は①保育者養成校入学生への質問紙調査を実施、②資格免許に関わる実習の効果検討として実習科目と座学の l i n k a g e に注目した授業検討を行った。</p> <p>①保育者養成校入学生への質問紙調査「障害のある子どもとの出会いに関する調査」 2012 年度からの継続研究で得られた結果と同じ傾向であり、質問紙調査研究対象者の多くが、保育所・幼稚園から高等学校までの過程で障害児と出会っていることがわかった。</p> <p>②資格免許に関わる実習の効果検討 科目「社会的養護（講義）」並びに「社会的養護内容（演習）」の授業形態を活かし、実習科目の学習に効果的につながる授業検討を行なった。アクティブラーニングの開発と評価を通し、教材を用いた「事象」提示と着眼点の提示は達成しているが、実習を通じた実践での「事例」に対応し得るところには課題があることが確認された。</p> <p>研究 2 は①現職者を対象にしたインタビュー調査、②現職者研修を企画運営である。</p> <p>①現職者のキャリアパスの構築に向けた現職者を対象とした聞き取り調査 2014 年度から継続研究している 2016 年 3 月に保育者養成校を卒業した現職保育者 6 名に実施した。社会人 3 年目となり 2 年目に比べて、個々の子どもへの十分なかわりの保障とクラス運営の狭間で葛藤を述べながらも、保育とは何かについて誠実に向き合っている姿があった。昨年度と同様、昨年度に比べ保育における葛藤が多く語られていた。この点について引き続き、解明していきたい。</p>	

## ②現職者研修の企画運営に向けた教材選定

教材として絵本1冊を候補とし、現職保育者5名、幼児教育学科4年生2名を対象に聞き取り調査を実施した。絵本を読んだ後の感想として、インクルーシブについて問うたり、自らの実践を振り返る語りがあり、教材候補として選定し得る可能性が得られた。

研究3はインクルーシブな環境と保育教育実践の実態調査を計画したが、障害のある子どもを積極的に受け入れている幼稚園や乳児院・児童養護施設等との接点は取れているものの、研究データを収集するには至らなかった。

## 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

### （1）研究成果の公表実績

本研究は2012年度からの継続研究である。平成30年度は以下において研究成果の発表を行った。

- ・学会ポスター発表 1件を行った。  
日本保育者養成教育学会 ポスター発表  
「科目「社会的養護・内容」と実習指導の連続性ある授業展開の検討（2）」
- ・平成30年度の本学の紀要論文集に投稿をし、1件受理された。  
十文字学園女子大学紀要 Vol. 49  
「インクルーシブ保育に向けた保育者の養成・育成と課題 II」

### （2）研究成果の発表予定

- ・令和元年6月頃に障害のある子どもとの出会いに関する調査Ⅶ 2018年度報告書の刊行予定である。
- ・令和元年9月に開催される日本特殊教育学会、令和2年3月に開催される日本保育者養成教育学会にて成果報告を行う予定である。
- ・令和元年度の本学の紀要論文集にエントリー予定である。その他、学会誌投稿にエントリーする予定である。